

Sesame

open the Homedoor!

 Homedoor

ANNUAL
REPORT
2019

 Homedoor

ホームレス状態を生み出さない日本に

認定NPO法人HomedoorANNUAL REPORT 2019
(2019年度年次報告書)

531-0074 大阪市北区本庄東1-9-14
tel. 06-6147-7018 / info@homedoor.org

 www.homedoor.org  NPO法人Homedoor  @Homudokun

誰もが何度でも、
やり直せる社会をつくりたい。

14歳の時にホームレス問題にであった代表が
その願いをもとに
19歳で団体を立ち上げて今年で10年。

多くの方にご支援いただき、
代表が思い描いた夢の施設「アンドセンター」も
オープンすることができました。

「個室で泊まれる」というインパクトから
昨年度は例年の2倍以上となる人が
相談に訪れました。

誰もが何度でも、やり直せる社会はつくれる。
「願い」が「確信」に変わった10年でした。



2012.04

HUBchariオープン

ホームレスの人の特技を生かした就労支援事業・シェアサイクルHUBchari(ハブチャリ)を大阪市内で開始しました。



2012.09 / 2013.04

大阪市住吉区・北区とHUBchari事業の協働実施

はじめてとなる行政との連携を行い、50名以上に就労の機会を提供することができました。

2013.11

ホームパト(夜回り)を開始

大阪市北区を中心に月に一度以上の巡回活動をお弁当やチラシをお配りしながら行っています。



2010.04

任意団体設立

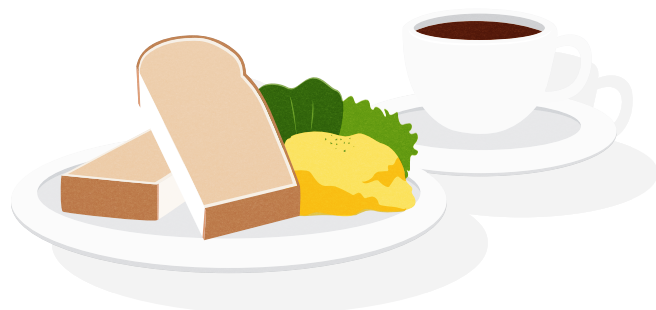
当時、大学2年生だった川口を含む大学生3人で、団体名も決まっていなかったが「ホームレス問題を解決したい」という思いで団体を設立しました。



2010.08

モーニング喫茶オープン

大阪市西成区でニーズ調査を兼ねた喫茶事業を開始しました。多くの人たちに居場所をつくることの重要性をこの時学びました。

10th ANNIVERSARY

— Homedoor10年のチャレンジ —

「ホームレス状態を生み出さない日本の社会構造をつくる」を理念に掲げ、これまで10年間奔走してきました。

“支援の幅が広がり、
ますますニーズも相談者も
増えた10年でした。”

Homedoorは2020年で設立10年を迎えました。あっという間の10年で、10年前の自分は、この時を迎えられるとは想像だにしていなかったと思います。そんな節目はまさかのコロナによる不況の影響で、相談者数が初めて月間100名を超えるという未曾有の事態です。これまた予想だにしていなかった状況でしたが、この10年間で多くの皆様にサポートいただき、整えることができた支援体制の成果もあり、なんとか支援を続けることができます。ニーズも相談者もより増加していることを実感し、誰もが何度でもやり直せる社会を目指して、これからも当事者とともに歩んでいきたいと思っています。

認定NPO法人Homedoor 理事長

川口 加奈

14歳でホームレス問題に出会い、ホームレス襲撃事件の根絶をめざし、炊出しなどの活動を開始。19歳でHomedoorを設立し、シェアサイクルHUBchari事業等で生活困窮者ら累計2000名以上に就労支援や生活支援を提供する。Googleインパクトチャレンジ グランプリ、人間力大賞グランプリ・内閣総理大臣賞等を受賞。日経WOMAN「ウーマン・オブ・ザ・イヤー2019」に選ばれる。大阪市立大学卒業。1991年 大阪府高石市生まれ。



2020.04

Homedoor設立10周年

多くの企業・個人の方に支えていただき、10周年という節目を迎えることができました。コロナウィルスの広がりを受け、団体のビジョンを形にしていく必要性が高まっています。

2019.04

Snapshot taken by Homeless始動

ホームレスの人たちに思いの写真を撮影してもらい、インターネットサイトで販売をするプロジェクトを開始。ホームレスの人の視点が見れると話題に。

データで見る10年間

相談者数

1,817人

宿泊提供数

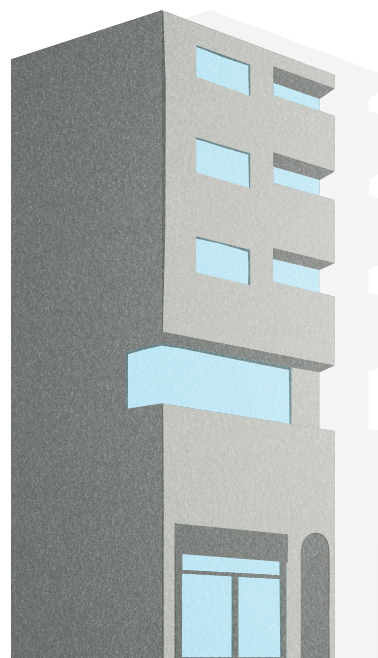
266人 6,055泊

夜回りで会ったのべ人数

7,574人

仕事を提供した人数

207人

※いずれも2010年～
2019年度の統計

2017.12

緊急シェルターの試験運用

相談者の宿泊ニーズが高まり、2Kの賃貸物件を借りあげました。3ヶ月で19名が利用し、「安心して体を休められる場所」の必要性を痛感しました。

2018.06

アンドセンター設立

代表・川口の高校生からの夢であった宿泊施設がついに完成！18部屋すべてがユニットバス付きの個室で多くの人に一時的な宿泊場所の提供ができるように。

2017.02

アンド食堂開始

月に一度、お昼時に食卓をみんなで囲むアンド食堂を開始しました。調理は料理人経験のある元相談者の方やボランティアが担当しています。



2017.10

大阪ストリートカウント実施

大阪市北区にて、深夜帯に野宿をしている人の人数をカウントする調査活動をスタッフとボランティアで実施しています。

2017.01

認定NPO法人に認定

客観的基準に基づいた公益性の高いNPOとして、大阪市より認定NPO法人に認定をいただきました。

2016.09

宿泊施設の試験運用

クラウドファンディングで資金を集め、3LDKのマンションを借り上げ、Homedoorの就労者向けの住居提供を試験的に行いました。

2015.03

生活応援施設
ホット&ハウスを開始

事務所を2階建てのビルに引越し、仮眠や料理ができるスペースをつくりました。多くの人がほっと安堵できる空間を提供できるようになりました。



これまでの主な受賞歴

- 2012年 日刊工業新聞主催 キャンパスベンチャーグランプリ「グランプリ」「経済産業大臣賞」
- 2015年 Google インパクトチャレンジ「グランプリ」
- 2016年 関西経済同友会・関西経済連合会主催 関西財界セミナー「輝く女性賞」
- 2017年 青年会議所主催 第31回人間力大賞「グランプリ」「内閣総理大臣奨励賞」「参議院議員議長奨励賞」WIRED Audi INNOVATION AWARD 2017「世界を変え、新たな未来をもたらす30の革新」
- 2018年 日経WOMAN ウーマン・オブ・ザ・イヤー「再出発サポート賞」Forbes誌「30歳未満の世界を変える30人 30 UNDER 30」

スタッフが振り返る Homedoor 10年の軌跡

創設者であり代表の川口から入職1年目のスタッフまで、
さまざまなメンバーがHomedoorの語られなかった側面を語ります。

10年で変わったことは？

(川口)

正直、立ち上げた時はホームレスの人を雇用できる環境を本当に用意できるのか、自分でも半信半疑でした。しかし、活動を続けてきたことで多くの人に応援いただき、少しずつ形になってきました。自分でもここまで続けられたのが不思議なくらいです。わたしたちの活動だけでなく大阪のホームレス問題のインパクトは測れませんが、夜回りをしているエリアではHomedoorで就



労をして、アパートを借りた人がたくさんいます。また、HUBchariの認知度は大幅に向上して、街中에서도見かける機会はずいぶん多くなったと思います。サービスが社会的に認知されてきたのがよくわかります。

(岡村)

以前は製造系の企業で働いていました。そのときは仕事にあまりやりがいを感じていなかったのですが、Homedoorは業務が社会的インパクトに直結していてやりがいがあり、働いて楽しいです。今はHUBchari事業をメインで担当しています。UR都市機構様と事業の連携ができた時は一気にポータル数が増え、利用できるエリアが広がりました。今後は、見たことあるけど乗ったことがないという人もいるので、そういった人たちに利用してもらうことでホームレス問題解決に寄与できることを知ってもらえたらと思っています。現在、社会人ボランティアチームと新たな広報施策を考えています。

しずつ導入してきましたが、アンドセンターができた2018年ごろから「宿泊 家がない」と検索をかける人が増えてきました。2019年度は67.6%がインターネットで検索をして相談に至りました。アンドセンターができてからの相談者の傾向は大きく変わっているなと思います。



この10年で大変だったことは？

(松本)

代表も私も社会人経験がないままにHomedoorの活動を始めたので、請求書の作り方すらわかっていませんでした。何をやるにもまずはネット検索からはじまりました。組織の形成においても、課題がたくさんありました。当事者雇用枠を一気に広げた時は、マネジメントと組織化がうまく

これからやっていきたいことは？

(川口)

アンドセンターができて若い相談者が増え、相談に来てても各部屋にこもりがちで、相談員以外は接点がないことも多いです。だからこそ、宿泊した人や相談に来た人と接点をつくれるような仕組み・仕掛けを用意できると良いなと思っています。Homedoorから紹介できる外部の仕事に関しても、その会社で半年間アルバイトできたら正社員化していくというような仕組みを作れたらいいなと。

理事/事務局長

松本 浩美

相談員/精神保健福祉士

笠井 亜美

理事長

川口 加奈

事務局スタッフ

岡村 匠海



(笠井)
2014年からリスティング広告を少

ネット検索での相談者は
増えていますか？

(笠井)

わたしは約4年前から相談員として働いていますが、相談者の多くは野宿状態の人でしたが、前の事務所は宿泊できませんでした。そのため、相談に来た日をなんとか乗り切ってもらい、翌日役所に一緒に行くなどの対応をしていました。アンドセンターを設立してから宿泊ができるようになり、野宿をしたことがない若い人や女性からの相談も増えるようになりました。野宿をせずに済むよう、受け皿をつくれるようになりました。

6 CHALLENGES

—— Homedoor 6つのチャレンジ ——

CHALLENGE

01

届ける

CHALLENGE

02

選択肢を広げる

CHALLENGE

03

暮らしを支える

CHALLENGE

04

働くを支える

CHALLENGE

05

再出発に寄り添う

CHALLENGE

06

伝える

OUR CONCEPT

—— 事業コンセプト ——

ホームレス状態を生み出さない
日本の社会構造をつくる

WHAT WE DO

—— 活動概要 ——

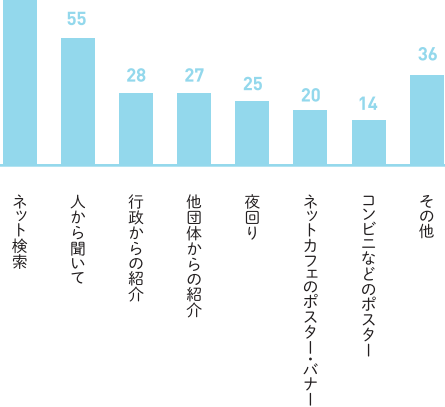
Homedoorではさまざまな状況に置かれた人に対応できるよう、いくつもの選択肢を用意しています。
どんな状況であっても本人が「やりなおしたい」と思った時にやり直せる環境をつくっていくことが
Homedoorが行っていきべきことだと考えています。
どんな支援が必要とされ、かつ効果があるのか、試行錯誤しながら支援の精度を磨いています。
毎年改善点を洗い出し、真に必要なサポートを生み出していきます。
その挑戦を「6つのチャレンジ」と表現し、将来的に全国で導入できるモデルケースをつくるのが目標です。

データで振り返る2019年度

Homedorを知ったきっかけ(N=634)

429

2018年度は43%だったネット検索が2019年度は68%と大幅に増えました。



夜回りで出会った人数

1,357人

冬期(11月～2月)は月2回、それ以外は月1回夜回りを実施しています。毎回85食のお弁当を作り、飲み物や「ホームパト通信」というメッセージカードも添えます。大阪市北区を4つのコースに分かれ、お渡ししています。



ポスター掲載店舗

180店舗

住まいを失った人にいち早く情報を届けるために、大手ネットカフェチェーンやコンビニに営業へ行き、ポスターやバナー掲載のお願いをしています。



現場のリアルボイス

VOICE

お弁当をもらう側から
つくる側に。



出会って4年になる
関口さん (70代)

以前缶集めをしていたとき、Homedorの人に「ご飯食べました?お弁当ありますよ」と声をかけられ、しばらくしてから事務所に行きました。そのときは生活の相談をするつもりはなかったんですが、うちで働きませんかと声をかけられ働くように。ある時、自転車にぶつかり、あばら骨を折ってしまい、生活保護を利用するようになりました。それで、時間と体に余裕ができたので夜回りのお弁当づくりをするようになりました。今はコロナの影響で中止していますが、また落ち着いたらお弁当作りをしたいです。

VOICE

相談をして、
毎日にメリハリが生まれた。

夜回りで出会った
若林さん(60代)

ネットカフェと路上を行ったり来たりする生活が続く中で、人と話すことが減っていき、人生を諦めていました。そんなとき夜回りでチラシとお弁当をもらいました。以前からファストフード店で仮眠をとっていると、貧困ビジネスに声をかけられることがあり、不安だったのですが、Homedorのチラシからは詳細な説明と地道な感じが伝わってきて安心感がありました。2週間悩んだ末、相談に行くことを決めました。今、宿泊場所と仕事の提供をしてもらっています。

VOICE

コンビニの
フリーWi-Fiを拾って。

ネット検索で来所した
石田さん(10代)

大学に進学しましたが、親に奨学金を使い込まれ、大学を辞めるしかありませんでした。親元にはいられないと思い、地元を離れ住み込みの仕事をしていましたが体調を崩し仕事も失いました。携帯代を払えなくなり、コンビニのフリーWi-Fiを拾って、検索をかけたらHomedorが一番上に出てきました。「こんな自分でも泊まれるのかな?」と思いながら相談メールを送りました。アンドセンターの個室でゆっくり過ごせ、その間に仕事も見つけることができました。



夜回り準備の様子。元事業者の関口さんが彩り豊かなお弁当を85食用意してくれました。

©今村 拓馬

ネット検索での相談が
全体の6割以上に

「ネットで調べたら一番上に出てきて、ページも見やすかった」「宿泊できる場所があると書いてあって希望が持てた」との声が非常に増えた一年でした。多くの人に知ってもらうべく、インターネットのリスティング広告の活用やネットカフェやコンビニなど深夜に営業している店舗でのポスター掲載などを積極的に行っています。携帯電話代を払えなくなったあと、フリーWi-Fiを駆使しHomedorにたどり着くケースが増加傾向にあり、今後もインターネットを活用したアウトリーチ活動を行っていく必要があります。

6年続けたアウトリーチ
「ホームパト」の成果

2020年1月の調査では、日本全国の「ホームレス数」は3992人(※1)でした。前年度と比べ12%の減少傾向にあります。Homedorでは、2013年11月から夜回り活動「ホームパト」を開始し、年間16回お弁当を配りながら大阪市北区で野宿をしている人たちと関係性を深めています。ホームレス数の減少に伴い、お会いできる人数も減少傾向にありますが、2019年度は5年以上夜回りで会っていた方がアンドセンターに宿泊されアパートに入室されるなど、アウトリーチの成果も着実に出てきています。

※1(2020年1月に実施されたホームレスの実態に関する全国調査(目視による概数調査)結果による)

【 2019年の CHALLENGE 】

課題	壁	チャレンジ	結果
野宿をしていない「ハウスレス」状態からの相談の傾向があると判明	ハウスレス状態の人は、店舗や知人宅で生活をしているため、アウトリーチづらい	社会人ボランティアを中心にコンビニやコインランドリーなどへのポスター営業を実施	アウトリーチできるエリアが増加し、相談者が約2.4倍に増えた

CHALLENGE

01

届ける



若年層ハウジングプアへの Homedoorの取り組み

若年層向けのアウトリーチに力を入れています。検索エンジンのリスティング広告を活用し、2018年度にWEBページリニューアルを行いました。ネットカフェやコンビニでのポスター掲示や夜回り活動なども展開しています。ページを見つけやすくなりやすくて、相談者自身がHomedoorで相談をしたいかどうかを検討しやすくなっています。



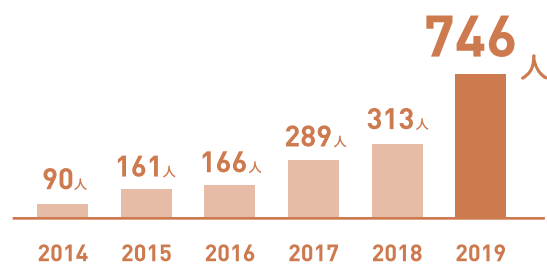
相談の目安をチェックリストにし、自分が相談に行ったほうがいいのかどうかを判断しやすくしています。



アンドセンターはサポーター（寄付会員）の皆さまのご寄付で運営をしており、2週間まで無料で宿泊することができます。

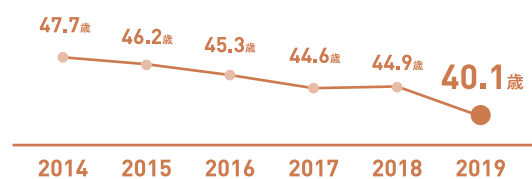
年間の相談者数

相談者は年々増加しており、2019年度は700人を超えました。



相談者の平均年齢

相談者の平均年齢はこの6年で7歳以上下がりました。



「ハウスレス」から 「ホームレス」へ

屋根はあるけど自分の家がない状態の「ハウスレス」から、完全な野宿状態である「ホームレス」になるのは簡単です。ネットカフェやドヤ（簡易宿所）のお金を払えるうちは良いですが、日雇いや派遣の仕事が一日でも無くなると、その日暮らしはできなくなります。あっという間にホームレスになってしまいます。そのため、体調が悪くても無理をして仕事に行く人が多いのが実情です。

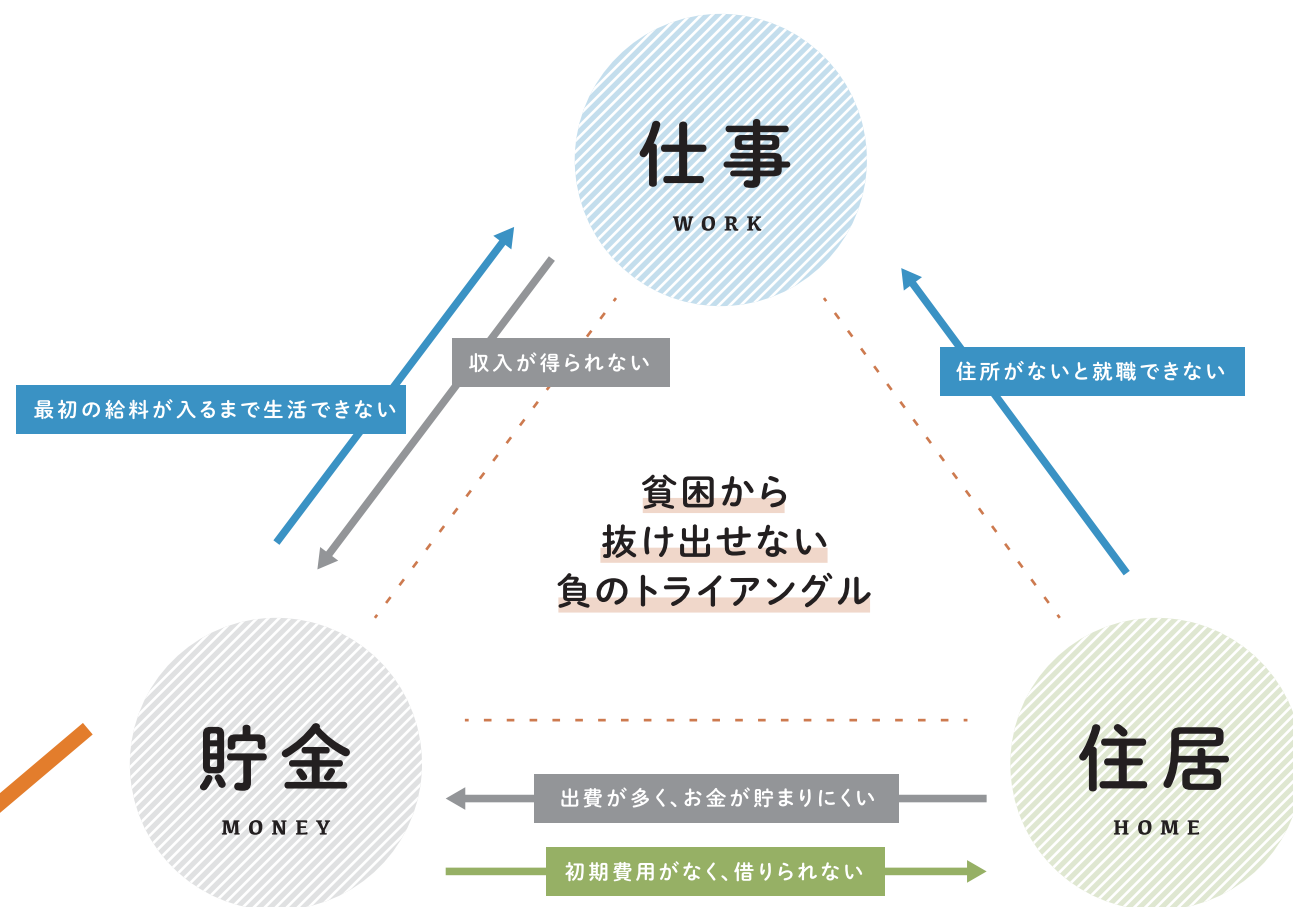
ホームレス

HOMELESSNESS

貯金が底をつくとき…

誰も知らない 「ハウスレス」の今

ネットカフェや知人宅など泊まれる場所はあるけれど、自分の家ではないところで生活をしている不安定居住層をHomedoorでは「ハウスレス」と呼んでいます。屋根がある場所で野宿と紙一重の生活をする彼らの実態に迫ります。



なぜ急増？
増えるハウスレス

一度住まいを失うと、再び自力で住まいや仕事を得ることは困難です。なぜなら「仕事」「住居」「貯金」の3つをすべて失うと、自分の力だけで以前の状況に戻ることは極めて厳しい社会構造だからです。

近年は非正規雇用の割合が労働者全体の約4割を占めています。相談者の多くは派遣を中心とした非正規雇用が直近の仕事形態であり、相談時の居所はネットカフェが26%、知人宅が14%を占めるなど不安定な住まいで暮らしている実態があります。自分名義の家ではないけれど屋根がある場所で寝られていることから、現状への危機感が薄い人も少なくありません。

住み込みもしくは寮付きの仕事を中心に探し、契約が終わるとまた次の住み込みを探すというサイクルを繰り返していると、体調を崩した時や急にお金が必要になった時に、その生活を継続させることができなくなってしまう。頼れる親族や友人がいればハウスレス状態からの脱却を果たせるかもしれませんが、相談者の多くは頼れる親族がいなかったり、縁が深かった人たちとの関係が途絶えていたりします。負のトライアングルに加え、人間関係の貧困状態も背景にあると言えます。

データで振り返る2019年度

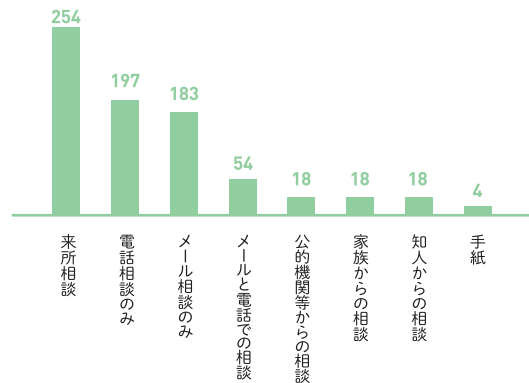
2019年度のアンドセンター宿泊者数

163人 4,149泊

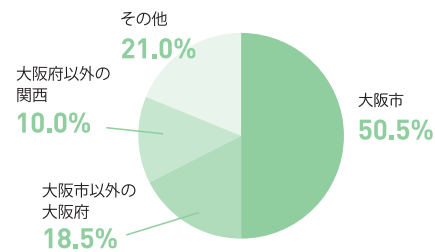
多くの相談者がアンドセンターでの宿泊を希望されました。荷物を持たずにやってこられる人も多く、宿泊者には新品の肌着や寝間着などを宿泊者セットとしてお渡ししています。

相談の経路(N=746)

来所せずに、電話とメールのみでの相談は2018度は37%でしたが、2019年度は58%になりました。と来所なしでの相談の割合が増加傾向にあります。

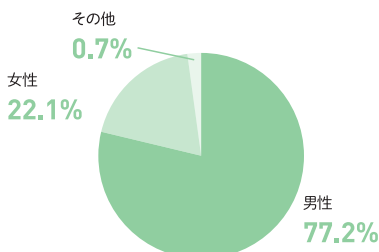


相談時の都道府県(不明を除くN=691)



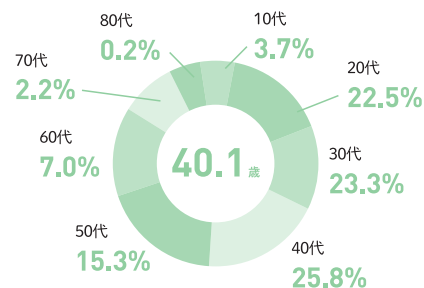
SEO対策の結果、日本全国さまざまな場所からの相談があります。関西圏外からの相談も増え、各地域の支援団体と連携し対応しています。

相談者の性別(不明を除くN=738)



2018年度より6.8%多い22.1%が女性という結果に。夫婦やきょうだいで相談も増えています。

相談者の平均年齢(不明を除くN=511)



前年度より4.8歳下がりました。30代以下が約半数を占め、若年化が進んでいます。

現場のリアルボイス

VOICE

スムーズな対応に
驚きました。



数年ぶりに相談来所した
成田さん (60代)

以前もお世話になったのですが、そのあと親が亡くなり、連絡しないまま姿を消してしまいました。そんな中、生活に困ってしまい、自分の中で過去のけじめをつけようと思って再びHomedoorへ相談メールを送りました。以前はなかった個室のシェルターがあり、サポートが手厚く、こんなにスムーズに対応してくれるのかと少し心配になる程です。コロナの影響で仕事が見つかるのかはまだわかりませんが、公的制度和年金でアパートを借り、新たな生活が始まります。

アンドセンター宿泊中の
井田さん (30代)

すべてにおいて
助かったなって思っています。

知人が調べてくれてHomedoorを知りました。前の仕事がかかなりブラックでうつ病が再発してしまい、死のうかなと思うこともありました。相談に来て話を聞いてもらって、「こうしたらどうですか?」と色々提案をしてもらえ、助けられたなって思っています。家を借りるサポートをもらったので、今後は通院しながらゆっくり仕事探しをしていければと考えています。

VOICE

布団で寝れて、
すごく幸せ。

人から聞いて来所した
斎藤さん (10代)

1週間くらい大阪の繁華街近くで野宿をしていました。外で寝ると腰が痛くてしんどかったです。収入がないので道ゆく人がくれるご飯でなんとか生活をしていましたが、「住むところがないなら助けてくれるところがあるよ」とHomedoorのことを露天商の人が教えてくれ相談に行きました。屋根と布団があるところで寝れて、本当に助かりました。人と話すことが好きなのでアンドセンター滞在中は、よく団らんスペースで過ごしています。



相談の様子。個室でこれまでの生活状況を聞き、それぞれに合った選択肢を提示しています。

急増する
「泊まりたい」の声

アンドセンター開設から2年が経過し、「生活に困ったときに宿泊できる場所」としての認知が高まってきました。相談者数は前年度比約2.4倍の746人になり、来る日も来る日も相談者からの連絡があります。住まいを失いそうだという人がこれだけ日本にたくさんいるのかと驚かされる毎日です。「洗濯された服を着るのなんていつぶりだろう」「3日間ご飯食べてなかったんで、助かりました」「足を伸ばして寝れて嬉しかったです」と相談者がアンドセンター入所初日に言ってくれる感想から衣食住の大切さを日々感じています。住まいがなく困っている人が路頭に迷うことがないよう、セーフティネットとしてアンドセンターの運営をこれからも続けていきます。

複数の要因が
困窮状態を深刻化させる

家を失うに至るには、「失業」「病氣」「家庭環境の悪化」などいくつかの要因があります。日本では、なにかひとつの理由だけでぐさま帰る家を失うわけではありません。複数の要因が重なり生活困窮状態が生み出されてしまうのです。また相談者の平均年齢が40.1歳と、かなり若年化しています。生活に困った時、親族に相談するという人は多いかと思いますが、児童養護施設で育ったり、親が他界していたりと、特に若年層の相談者は頼る場所が少ない傾向にあります。だからこそ、早期の段階であっても「まだなんとかなる」ではなく、小さなSOSをどんどん発信してもらえ、環境を社会全体でつくっていく必要があり、その一助にHomedoorもなれたらと考えています。

【 2019年の CHALLENGE 】

課題	壁	チャレンジ	結果
2018年度にアンドセンターを設立したが、認知度が低く、運営体制が不十分だった。	施設運営の経験がなく、ルールなどの準備ができていなかった。また、施設があることを十分に告知できていなかった	施設のルールなどをつくり、利用できる層の明確化を図り、やりとりの多い行政窓口や他機関に施設の周知をした	アンドセンターの利用が活発になり、163人が4149泊の利用をした



何があるの？ 何ができるの？

& CENTER

アンドセンター

データで見るアンドセンター

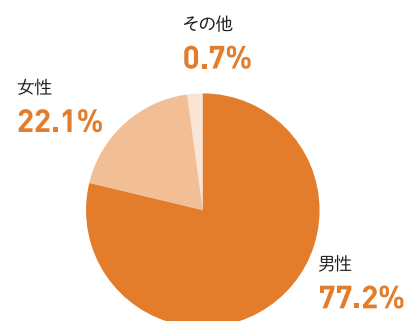
宿泊者（2018年6月～2020年3月まで）

247人 6,005泊

老若男女さまざまな状況にある人たちが「こんな自分でも泊まれますか？」とやって来られました。

平均宿泊日数(N=225) 11.2日

宿泊者の性別(N=225、性自認による)



アンドセンターが個室であることも影響し、女性や自身の性にゆらぎのある人からの相談が多くなりました。

相談の流れ

初回面談

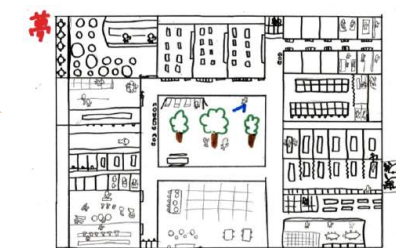
電話・メールでの相談があった場合、すみやかに返事を行います。現在地が関西以外の人へは他の支援団体や市町村の窓口の案内をします。来所での相談は、相談票を記入してもらい、初回面談を専門の相談員とプライバシーが保てる個室の相談室で行います。「緊急一時宿泊」「公的制度の活用」「Homedoorでの就労提供」「協力企業への就職先紹介」「衣服や食事の提供」「他機関の紹介」など複数の選択肢を提示し、本人の希望を最大限尊重します。

施設の利用

アンドセンターでの宿泊は2週間まで無料です。ユニットバス付きの個室でゆっくりと心と体を落ち着かせ、今後や自分のこれからを見つめ直す時間を取ってもらいます。宿泊をしていない人も利用可能なシャワー室や洗濯機、団らんスペース、キッチン、Wi-Fiブース、図書コーナーなどを併設しています。過去に相談にやってきた人が遊びに来てくれることも多く、アンドセンターはいつも賑やかです。

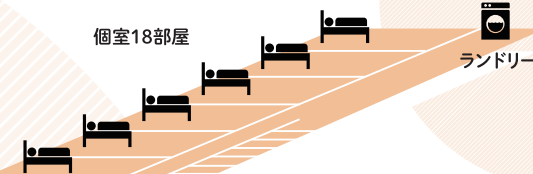
方針の決定

宿泊中に今後の方針を決めてもらいます。Homedoorで働きはじめたり、必要に応じて不動産や協力企業との引き合わせを行ったりしています。アンドセンターを出発される日には、電気ケトルや炊飯器、食品などその人の生活に必要なものを詰め合わせた居宅移行セットを、ささやかながら新たな門出のお祝いとしてプレゼントしています。



「どんな状況に陥ったとしてもあそこに行けばなんとかなる」そんな場所を夢見て、代表が高校生の頃に描きました。

3-5F



ベッド、テレビ、冷暖房、シャワー完備の個室が18部屋

2F



冷蔵庫や電子レンジを自由に使えます



プライバシーの保てる空間で生活の相談ができます

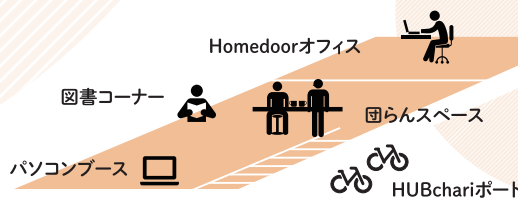


宿泊者以外も利用できるシャワーだけの部屋もあります

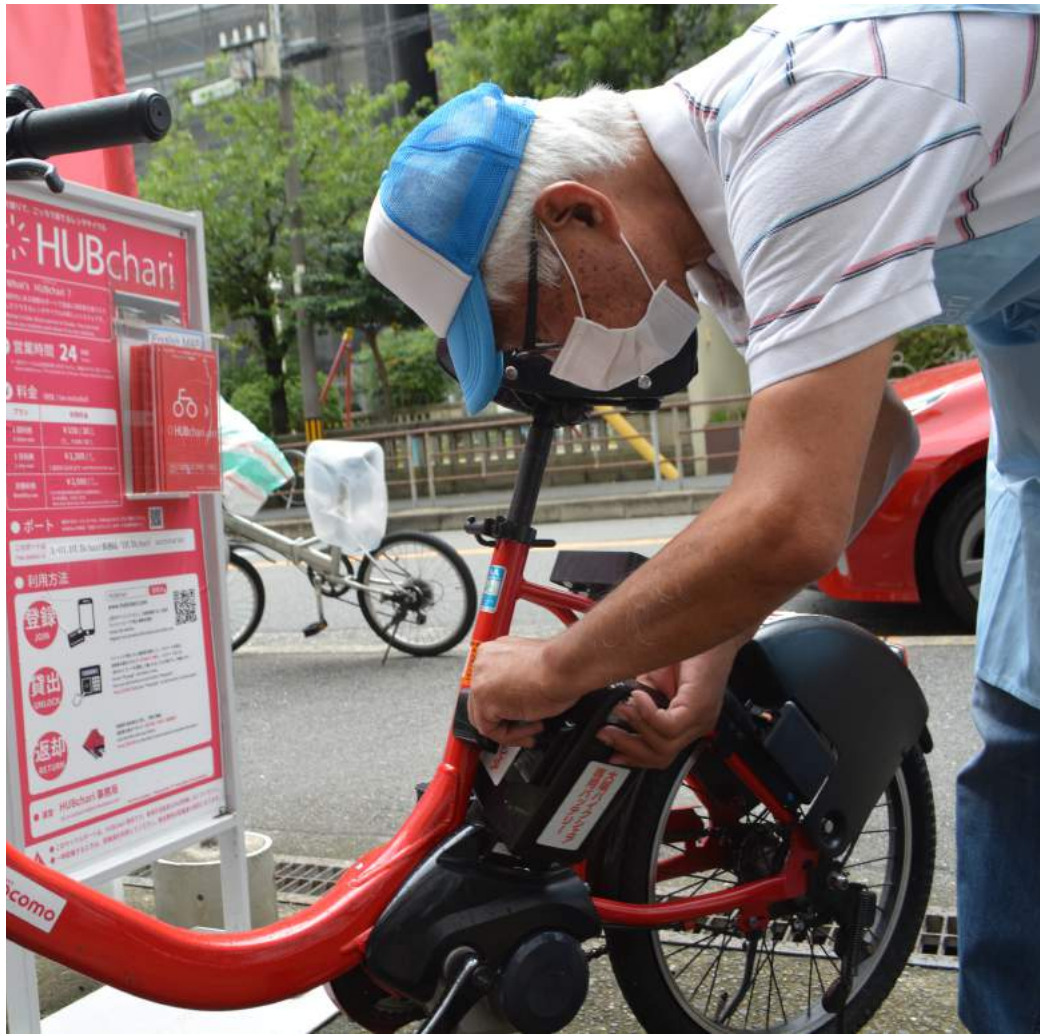


行政機関や連携企業との面会などを行います

1F



おしゃべりしたり、PCで調べ物したり思い思いの時間を過ごせます



HUBchariのポートが増え、バッテリー交換業務も大忙し。



年末は恒例の「カレー対決忘年会」。手作りカレーを食べ比べて、お腹いっぱい！

[2019年の CHALLENGE]

課題	壁	チャレンジ	結果
若年層を中心とした相談者が宿泊をしても、なかなか関係性がつかれない	部屋にこもりがち、もしくは単発の仕事に出かけている	月に一度の定例会議を行い、食事やイベントなどのアナウンスを積極的に行った	少しずつではあるが、団らんスペースに顔を出してくれる人が増え、コミュニケーションに積極的な相談者が現れた

団らんスペースが もたらすもの

アンドセンターには誰でも自由に使える団らんスペースがあります。日曜日を除き毎日開所しており、年齢や性別を問わず多くの人がこの場所で日中を過ごしています。事務所のWi-Fiで調べ物をする人、図書コーナーの本を熱心に読む人、キッチンコーナーで料理をする人、珈琲を飲みながらゆっくり過ごす人、寄付でいただいた食料や衣服を取りにくる人。いろんな人が行き交うこの場所では、多くの出会いが生まれます。いつのまにか共通の趣味を見つける人たちもいれば、Homedoorを経由して家を借りた人の家に遊びに行ったと話す人も。ゆるやかなつながりを生み出すこの場所が、さまざまな経験をした人たちのひと時の心のオアシスとなっていることはとても喜ばしいことです。



今川さん(30代)

生活支援メニュー



シャワールーム



ランドリー



看護師による
健康相談会

時間のある時は
できる限り恩返しをしたい。

トラブルがあり仕事と住居を失ってしまい、「ホームレスになるしかないのか」と思ってコンビニのフリーWi-Fiを使って調べ、次の日にすぐHomedoorに相談に行きました。今後の生活に向けて福祉サービスの紹介など様々な提案をしてもらいました。いまは家を借りて就職活動しながらも事務所に顔を出している人々と団らんし、荷物運びなどのお手伝いをしています。

CHALLENGE

03

暮らしを支える

CHALLENGE

04

働くを支える

[2019年の CHALLENGE]

課題	壁	チャレンジ	結果
提供できる仕事に限られていた	委託企業と雇用できる当事者のニーズが合致しなかった	短期間、短時間の仕事をトライアル導入した	一時的に収入が必要な当事者に仕事の提供ができ、企業からも継続的な業務のオファーがあった

「働く」の 多様性とは

これまで「働きたい」と相談に来た人の多くは路上生活を経験している人たちでした。しかし相談者の傾向が少しずつ変化し、今では路上生活をしたことがない40代以下の層が大半を占めるようになりました。過酷な路上生活に慣れている人にとってはHomedoorが提供できる屋外作業の仕事は親しみやすい内容でしたが、工場勤務など室内での勤務が中心の若い相談者にはなかなか受け入れられない仕事内容であることが、年月を経るごとにわかってきました。フードデリバリーの配達員やユーチューバーのような「雇用される」以外の働き方をしている人も増えたため、それぞれの特性を生かした仕事をつくることの難しさを感じながら、どんな仕事なら関わってもらいやすいのかを日々考えています。



堀さん(40代)

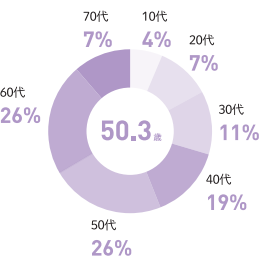
VOICE

一番の魅力は路上にいても
仕事があること。

身分証や携帯電話がないと仕事が見つからず、生活に困っていました。近くで野宿をしていた人から紹介してもらい、Homedoorで仕事をするようになって1年が経ちました。おかげさまで今は食べることや着るものに困らなくなりました。働いてみて路上から働ける仕事があることのありがたさを感じています。

就労した人の平均年齢 (N=27)

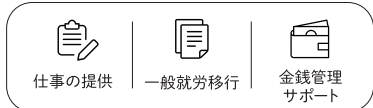
昨年度より3.4歳下がりました。年齢が上がるごとに一般就労を探すのが難しい傾向にあります。



提供した仕事の数

前年度から実施していた仕事に加え、2019年度は企業の協力を得て新たに3種類の仕事を提供することができました。

8種類



仕事の提供

一般就労移行

金銭管理
サポート



2019年度の年次報告会の様子

知ることからすべては始まる

ホームレス問題は理解が得られにくい分野です。自己責任論が根強く、「本人の努力不足でホームレスになったんでしょ」と言われることが非常に多いです。正しい認識をしてもらうという意味でも、講演やメディアへの露出は大きな意味があります。また、企業からの求人票提供や個人からの寄付に繋がることも多いため、「伝える」活動はホームレス状態を生み出さない日本をつくるというHomedoorのビジョン達成に大きく寄与していると言えます。コロナウイルス感染拡大により、仕事や住まいを失う人は今後ますます増加していくと予想されるため、誤った認識を解きほぐす「伝える」活動はさらに重要になっていきます。現場の声やホームレス支援の現状を、これからもしっかりと伝えていきます。



講演/ワークショップ



路上生活者調査

講演

中学生に向けたボランティアの心得から企業向けの研修まで、幅広いジャンルの講演機会をいただきました。



講演回数

27回

ストリートカウント2019

2017年度から実施している深夜に野宿をしている人数をカウントする調査活動を、2019年度も市民ボランティアと一緒に実施しました。大阪市北区を6グループに分かれ、くまなく回りました。



野宿者数

128人

CHALLENGE

06

伝える

2019年度の主なメディア出演

- 2019年5月 「朝日新聞紙面(一面)/デジタル版掲載」
ドヤのおっちゃん、街を撮る 脱ホームレスへ写真販売
- 2019年6月 「週刊ダイヤモンド」イノベーターの育ち方
- 2019年12月 NHK「おはよう日本」
- 2020年1月 「Business Insider」ミライノツクリテ(4回連載)
「読売新聞」
- 2020年2月 日本政府SNS「The Government of Japan」

ほか他数

2019年度の主な寄稿

『月刊福祉2019年7月号』(全国社会福祉協議会)
ホームレス状態を生み出さない日本をめざして—
ホームレス支援の実践

『無料低額診療事業のすべて』(クリエイツかもがわ)
ホームレス支援と無料低額診療



新年恒例の餅つき大会。過去の相談者が今ではイベントの力仕事を担ってくれる戦力に！

【2019年のCHALLENGE】

課題

相談者に提示できる一般就労の
選択肢が少なかった

壁

相談者は所持金が少なく、携帯電話
や身分証を持っていないため一般
就労が見つかりにくい

チャレンジ

一般企業向けの求人票の改訂を行
い、企業側に相談者の置かれてい
る状況を分かりやすくした

結果

一般就労の求人票が徐々に集まり、
提示できる選択肢が増加した

VOICE

困っている人を全力で
サポートしてくれる場所。

川端さん(20代)

パチンコ店の住み込みなどで働いていましたが、人間関係や仕事上のストレスで退職し、2週間後に会社の寮を出ました。ネットカフェなどで寝泊りするお金も底をつき、Homedoorに相談にきました。今は自分で働いてアパートを借りることができるようになりました。

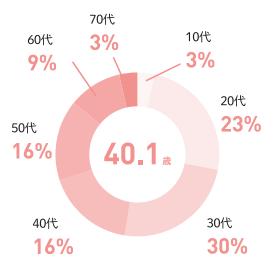
CHALLENGE

05

再出発に寄り添う

居宅移行した人の平均年齢 (N=64)

2019年度中に居宅に移った人は
64人でした。平均年齢は4.5歳下
がりました。



引越し・見守り



就労定着

卒業生
サポーター

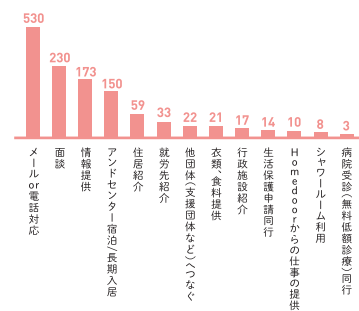
卒業生の夜回り参加者数

過去に自分もお弁当をもらったという人や「お世話になったから」と相談に来たことがある人が、夜回りに参加してくれることも多いです。

38人

相談者へのサポート内容 (N=1270)

前年度から継続して相談に来る人も多くいますが、
以下は2019年度に新規に相談に来た人に対して
のサポートのみです。



HOMEDOOR NEWS

1 HUBchariポート、続々誕生！

ホームレスの人の特技を生かした就労支援として2012年に開始したシェアサイクル事業HUBchariですが、多くの企業との連携を果たすことができ大阪府下230以上のポートで利用いただけるようになりました（株式会社ドコモ・バイクシェアポート含む）。おかげさまで働く人、利用する人、ポートを設置協力をいただいている企業、三方良しの事業として運営を行うことができています。事業の収益はアンドセンターの修繕費や相談支援事業に充当しており、安定的な運営につながっています。大阪にお越しの際は、ぜひ移動に便利なHUBchariをご利用ください。



HUBchari

www.hubchari.com



2 「ホームレス」という経験を生かして

Snapshot taken by Homelessはホームレスの人たちにカメラを渡し、「心が動いた瞬間にシャッターを切る」というルールだけを伝えて、思い思いに写真を撮ってもらい、それをストックフォトサイトで販売するプロジェクトです。2019年度はテレビや新聞など多数のメディアで取り上げていただきました。野宿生活を行う人ならではの視点が光る写真がたくさんあります。特設サイトを見るだけでその人たちの軌跡がわかるので、ぜひ一度ご覧ください。



www.homedoor.org/snapshot/

3 地域との連携で新たな雇用を創出

2019年12月に大阪・御堂筋の地権者組織であるミナミ御堂筋の会と連携し、御堂筋イルミネーション時の夜間の駐輪対策業務を担当しました。ライトアップ時期のみのため短期間ではありますが雇用できる人数が増え、さらに今後も継続的な連携を行っていくことができるようになりました。ちょうど一時的な仕事を探していた相談者もいたため、雇用の場をつくることの重要性を再認識しました。



多くの個人・企業の皆様にHomedoorは支えられています！



VOICE

できることをやればいいんだ
という気付き。



ボランティア/サポーター

製薬会社
勤務
小堀さん

VOICE

自社の技術を活用した
社会貢献。



企業の声

不二熱学工業株式会社
代表取締役社長
近藤さん

VOICE

生きる意味を
考えさせられる活動。



サポーター

ファクトリエ
代表
山田さん

2019年からHomedoorの活動に参加しています。参加前に抱いていた「ホームレス」のイメージと実像のギャップ、そして生活困窮状態から抜け出すときに立ちはだかる大きな壁に驚きました。できることは多くないですが、スタッフの方から「できる範囲でできることをすることが大切だ」と教えていただき、本業がプロジェクトマネジメントのため、会議などのお手伝いをしています。

社会起業家のイベントを通じてHomedoorを知り、自分自身も社会からこぼれてしまう事もあるという実感を持つようになりました。そこで、暴走する川口さんからの依頼で、Homedoorが一棟借りをした施設「アンドセンター」の設備に関するメンテナンスをしています。企業として自社の技術で社会に貢献できる機会を得られた事に感謝しています。川口さんをこれからも少しでも支える事で、サービスを受ける皆さんに貢献出来ればとの思いからサポーター企業をさせて頂いております。

「ホームレス状態を生み出さないニホンに」というビジョンを掲げているホームドアさん。夜のお弁当配りやハブチャリなど、ホームレスの方々の自立支援活動を見て、心から感動しました。また先日、実際にアンドセンターへお邪魔し、そこで暮らしている方と生活環境を見させていただきました。一人一人の人生に寄り添い、生きる意味を考えるきっかけとなるホームドアさんの活動が、より一層広まりますようお願いってます。

ハウスレスの 3大リスク

誰もが戸惑いや不安を抱えることになった未曾有の事態。
 2020年2月ごろからコロナによる生活困窮についての相談が増えるようになりました。



コロナは誰もが困窮する可能性を加速化させた

すべての人が生活に困窮するリスクは存在していますが、コロナはその可能性をさらに高めました。正社員として働いていた人、多額の投資をしていた人、店を経営していた人など、これまであまり相談がなかった層からの連絡が相次いでいます。収入や貯蓄に余裕があったとしても、緊急事態宣言の発令や営業自粛などに伴い仕事ができない状況に陥り、家族からも見放されてしまい家を失うケースもあります。

これを「自己責任だ」と片付けることができるでしょうか。「一億総困窮」の可能性がある今だからこそ、困ったときに気軽に頼れる場所や活用できる制度が注目されはじめています。コロナの影響を受けた人があまりにも多いため、既存制度の要件緩和なども行われるようになりました。生活保護など公的制度利用をスティグマ※1だと考える人は少なくありませんでしたが、「日本国憲法第25条で保障された権利」※2として生活に困った人が遠慮せずに制度を利用できるように働きかけていきます。

※1…英訳では「烙印」という意味。何らかの属性を持つことから差別や偏見の対象として扱われてしまうようになること。属性は、民族や外見、障害、疾患など様々なものが該当する。

※2…「すべて国民は、健康で文化的な最低限度の生活を営む権利を有する。国は、すべての生活面について、社会福祉、社会保障及び公衆衛生の向上及び増進に努めなければならない。」と定められている。

住居リスク HOME

ネットカフェが休業して 寢床を失った

2020年4月、緊急事態宣言の発令に伴い、ネットカフェにも休業要請が出ました。多くの人が実質的な住まいの場として利用していたので、大きな混乱を招きました。宣言発令中の夜回りでは梅田コースは通常の2倍の人数に会うなど、困窮者が路上に押し出されることに。自分の名義でない住まいというものがいかに脆弱であるかが明らかになりました。



仕事リスク JOB

安定していたはずの 仕事から一転、無職に

今までは安定的に仕事があったけれどコロナの影響を受けて、仕事が無くなってしまったという人からの連絡が後を絶ちません。「接客業の正社員でしたがクビになって…。社宅だったので家もなくなってしまった。」と話す人もいました。2020年度の相談者のほぼすべての人が、何らかのコロナによる影響を受けていると言っても過言ではありません。



情報リスク INFORMATION

一律給付のはずの10万円が 自分はもらえない

「特別定額給付金は野宿をしていても受け取れますか?」という問い合わせが非常に増えました。住居喪失している人は携帯電話など情報を得る手段も失くしていることが多く、刻一刻と変わる情報を逐一入手することが極めて困難です。野宿をしていても給付金を受け取ることは可能なのですが、それが伝わっておらず受け取れない人もいます。情報リテラシーと生活困窮には大きな相関があると言えます。



VOICE

路上での生活もコロナでさらに生活苦に。

公園で野宿をしながら、段ボール集めと年金で生活をしていました。最近公園の近くに大きなマンションが建ち、住民に公園から出ていくように言われ、荷物を置けなくなり段ボール集めの仕事も長時間できなくなりました。さらにコロナのことがあり、段ボールを出すお店も減って、より生活が苦しくなりました。住民票を友人の家に置かせてもらって特別定額給付金をもらおうと思ったけど、大家さんに怒られてしまい、諦めようかなと思ったときにHomedoorのことを思い出しました。何から何までサポートしてもらい、家ももうすぐ借りられそうです。

堀行さん(70代)



会計報告

ACCOUNTING REPORT

活動計算書 (9期:2018年4月1日～2019年3月31日)

(単位:円)

			8期	9期	前年度比
経常収益	受取寄付金 (サポーター会費含む)		22,523,427	28,889,386	128.26%
	受取助成金		13,954,790	0	
	受取補助金		0	4,535,035	
	事業収益	事業収益	10,253,643	25,315,693	246.89%
		受託事業収益	10,155,032	11,764,034	115.84%
		その他事業収益	0	0	
		事業収益 計	20,408,675	37,079,727	181.69%
	その他収益	受取利息・雑収益	18,035	39,995	221.76%
	経常収益 計		56,904,927	70,544,143	123.97%
経常費用	事業費	1. 人件費	19,732,919	21,264,056	107.76%
		2. その他経費			
		業務委託費	2,747,990	2,203,599	80.19%
		旅費交通費	805,493	690,661	85.74%
		消耗品費	2,105,317	3,024,453	143.66%
		水道光熱費	909,677	1,464,647	161.01%
		地代家賃	11,587,687	7,630,000	65.85%
		修繕費	0	1,767,616	
		その他	4,236,298	5,823,886	137.48%
		その他経費 計	22,392,462	22,604,862	100.95%
	管理費	1. 人件費	1,072,585	1,477,367	137.74%
		2. その他経費	2,527,321	2,261,004	89.46%
	経常費用 計		45,725,287	47,607,289	104.12%
経常外収益			9,967	0	
経常外費用			860,000	9,206,352	1070.51%
法人税、住民税及び事業税			70,000	170,300	243.29%
当期正味財産増減額			10,259,607	13,560,202	132.17%
前期繰越正味財産額			57,485,004	67,744,611	117.85%
次期繰越正味財産額			67,744,611	81,304,813	120.02%

多くの方から事業に共感いただき、9期は冬募金が260万円、企業からの大口寄付があるなど、8期と比べて大幅な増収となりました。

〈事業収益〉
HUBchari事業は前年度比291%増となり、組織の基盤強化に大きく貢献しました。

〈受託事業収益〉
大和リース様から受託した就労支援事業(駐輪管理)が安定した雇用の場につながっています。2020年度はさらに新規業務を受託予定です。

事業収益や寄付が増えたことにより、各部屋の設備(テレビや収納など)を充実させることができました。

アンドセンターの利用者が増加し、費用が多くなりました。

8期はアンドセンターの初期費用が発生したため、9期より多くの支払いが発生しています。

施設(エアコンやポンプ)の老朽化に伴い、安全快適に施設をえるよう修繕を行いました。

現在、アンドセンターは賃貸で契約していますが、購入を視野に入れています。そのため、購入準備資金5000万円が繰越正味財産として計上されています。また、新たなアンドセンターの施設「アンドカフェ」建設(P27参照)のための準備資金もこの中から捻出する予定です。

わたしも
サポートしています



会計ボランティア
亀井さん

この活動計算書は会計帳簿の記載金額と一致し、特定非営利活動法人Homedorの収支を正しく示していることを認めます。



税理士
准認定ファンドレイザー
中山 麻衣子



Homedor監事
杉浦 元

団体概要

ABOUT US

- 設立** 2010年4月
(2011年10月NPO法人格取得、2017年1月認定NPO法人に認定)
- ビジョン** ホームレス状態を生み出さない日本の社会構造をつくる
- スタッフ** 事務局スタッフ 8名(2020年7月時点・内2名が役員を兼任)
当事者スタッフ 10名
ボランティア登録者 1255名
相談ボランティア 15名
- 役員** 理事長/川口 加奈
理事/松本 浩美(事務局長と兼任)
理事/竹原 啓二(株式会社フューチャー・デザイン・ラボ 代表取締役会長)
理事/岩田 真吾(三星テキスタイルグループ 代表取締役社長)
監事/杉浦 元(株式会社エリオス 代表取締役社長)



組織の経営戦略を考える役員



実務面を支えるスタッフ

2019年度のご報告とお礼

2019 REPORT/THANKS

いつもアットホームなホームドア、
皆様の優しさに支えられて、
活動が継続できておかげで、
本当に感謝申し上げます。
スタッフ安式

激増の相談者、激増の
2019年でした。多くの当事者
企業の皆様に来て頂き
乗り越えることができて。
ありがとうございました! 理事長 川口

「あの日、勇気を出して相談に行ってくれた人が
いた」と後日話してくれた人が
いました。応援してくださっている皆
様のおかげでこの言葉があるのだ
と思っています。事務局長 松本

緊急宿泊施設「アンドセンター」の
ベッドや布団も新しくなりました。
おそうじ用品もみな様のご寄付で
補充して清潔な部屋を提供できています。
ありがとうございます。スタッフ 松下

「また遊びに行くといいな」
も。みんなたちが言ってくま
すが、この言葉を聞けるのも
みな様のおかげです。いつも
ありがとうございます。スタッフ 岡村

2019年 9月の方からの支援
が、あったおかげで、相談対応
緊急宿泊対応ができました。
ありがとうございました。
相談員 望月

ホームレス状態を生み出さない日本の社会構造を作るために
寄付で私たちのチャレンジを応援してください！



3,000円で
専門相談員によるカウンセリングを
ひとりに提供できます。



5,000円で
アンドセンターでひとりが
一晩ゆっくり休むことができます。



10,000円で
夜回りを2回実施し、
100名以上に食事を提供できます。

サポーター会員になる(継続寄付)

1日30円から継続的にサポートできます。
サポーター会員のみなさまには会員カードなどのサポーターセットをお送りします。

クレジットカード決済で

ウェブサイト(www.homedoor.org/besupporters)
から簡単にお手続きできます。



口座振替で

お電話かメールを頂ければ、
口座振替申込書をお送りします。

☎ **06-6147-7018**

✉ **info@homedoor.org**

好きな額で寄付をする(単発寄付)

ご都合の良い時に、ご自由な金額・回数でご寄付いただけます。
ポイントなどお金以外の方法での寄付もできます。

クレジットカード決済で

ウェブサイト(www.homedoor.org/donatedetail)
から簡単にお手続きできます。



Tポイント、本、電力でも 寄付ができます！

Tポイント、本、電力でも寄付ができます。余っている
Tポイントや読まなくなった本、利用する電力を
変えるなど様々な方法での寄付ができます。
まずはぜひウェブサイトをご覧ください。



銀行振込で

下記口座にお振込ください。銀行振込の特性上、用途を確認できな
いため、お手数ですがフォーム(www.homedoor.org/donatedetail)
よりご連絡ください。

三井住友銀行 梅田支店(127)
普通 8928985
トクティヒエイリカソドウハウジン
ホームドア



Homedoorへの寄付には税制優遇があります！

認定NPO法人への寄付には税控除の対象になります。
確定申告で、寄付額の約40%が所得税と住民税から控除されます。

例) 年間30,000円の寄付をした場合、
12,320円が控除となります。
所得税: (30,000円-2,000円)×40% = 11,200円
住民税: (30,000円-2,000円)×4% = 1,120円



ボランティアでの応援も大歓迎です！

ウェブサイト(www.homedoor.org/volunteer)から
ボランティア登録をすると、毎月25日頃にボランティア情報が届きます。



ボランティア
新出さん

一緒に活動
しましょう！

代表・川口のこれまでの歩みと、
Homedoor設立から10年間の軌跡を
まとめた本が、この度発売となりました。
ぜひ、お買い求めください！



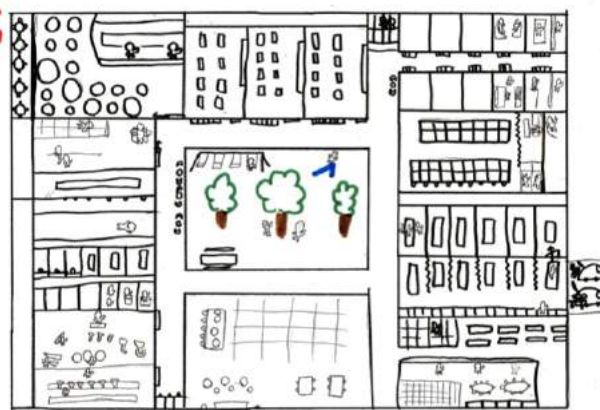
『14歳で“おっちゃん”と出会ってから、
15年考えつづけてやっとつけた「働く意味」』
(ダイヤモンド社)

2020年9月2日
発売開始！

NEXT CHALLENGE

—— 新たに取り組む、次なる挑戦 ——

第



描いた夢を現実に。
そして、これからも…

高校生の頃、描いた夢の間取り図。

「こんな場所があれば、路上で亡くなる人がいなくなるんじゃないか」
その思いを持ち、10年以上活動続け、アンドセンターが生まれました。
住まいのセーフティネットとして多くの人を迎え入れられるようになり、
新たな課題が生まれました。
P18にもある通り、これまでと違い野宿を経験したことがない人が
多く相談に来るようになったのです。
若い人たちが過ごしやすい空間や仕事を用意する必要が出てきました。

今後の取り組みテーマ

増える若年層の相談者とう向き合うか



アンドカフェ事業(仮)の立ち上げ

居場所提供と就業機会を合わせて生み出すアンドカフェ事業(仮)を開始します。
カフェに3つの機能を持たせることで若年層の相談者への支援を充実します。



コミュニティ機能

アンドセンターの宿泊者の食堂として健康
的な食事を提供し、宿泊者同士のコミュニ
ケーションを活性化させます。アンドセンタ
ーの部屋にこもりがちになる人も多いので
気軽に集える場所を提供し、できたてのご
飯を食べられるようにします。



就労支援機能

単に食事を提供するだけではなく宿泊期
間中に一時的にカフェで働いてもらい、社
会的な役割を作り孤立を防止。カフェには
就労支援員を配置し、ご飯を食べたり働い
たりしながら気軽に、次のステップに向け
て相談できる場としても活用します。



カフェ機能

開かれた場として、地域住民たちも集え
るコミュニティスペースとしてカフェを運
営します。Homedoor自体が常に社会と
繋がりを持つことで、多くの人に私たちの
存在・活動を知っていただく機会を創出
します。